

集会宣言（案）

昨年9月5日、長崎県はついに石木ダム建設のための土地の収用裁決申請に踏み切った。しかし、建設予定地に住む13世帯約60人の意思は微動だにしない。石木川の恵みを誰よりも知っているからだ。虚空蔵が育んだ清流は、里山に豊かな収穫をもたらす。川魚やホタルなど多くの生き物を育む。夏は子どもたちが泳いだりもぐったり貴重な遊び場となっている。お金には代えられない、こころ豊かな生活がここにある。幾世代に亘って培った豊かな絆がある。この豊かさを守り次の世代に手渡したいと考える人々が今もここで暮らしている。ひとたびダムの底に沈めたらこの豊かさは戻らない。

県は石木ダムの治水効果を謳い、佐世保市はその利水効果を謳うが、今日私たちは石木ダム対策弁護団の説明を聴いて、石木ダムが必要のないものだということをはっきり理解した。県や佐世保市が配布する広報を見て、石木ダムの必要性を信じていた人もいるだろうが、その必要性の根拠がいかにか曖昧なものであるか気づくことができたに違いない。その無駄な事業のために県民の貴重な税金が惜しげもなく投入されてきた。その上、佐世保市民は水道料金という形でさらなる負担を強いられている。

石木ダム計画をこれ以上進めることは、自然と地域を破壊し、県や佐世保市の財政をより圧迫するだけ。知事や佐世保市長は次の世代を担う子どもたちにさらなるツケを回すつもりなのか？

残すべきは、借金ではなく豊かな自然。
守るべきは、利権ではなく人々の暮らし。
求めるべきは、ダム建設ではなく県民の声。

私たちの声を届けよう。民意を県に届けよう。未来を決めるのは私たちだから。
「今こそ見直そう石木ダム計画！必ず止めよう強制収用！」
私たちは今ここに宣言する。

2015年1月18日

「今こそ考えよう石木ダムと強制収用」佐世保集会 参加者一同